

2021年12月11日・12日
日本精神障害者リハビリテーション学会 第28回愛知大会

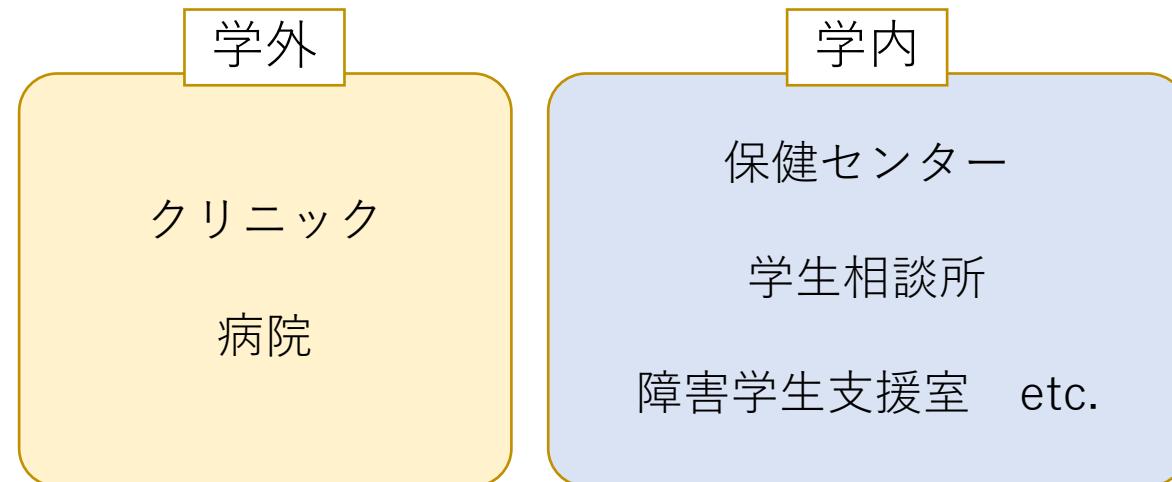
学生が支援を受ける中で経験した困難と助かったこと： テーマ分析

五十嵐 百花¹⁾ 宮本 有紀²⁾ 渡辺慶一郎³⁾

- 1) 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域・司法精神医療研究部
- 2) 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 精神看護学分野
- 3) 東京大学相談支援研究開発センター

■ メンタルヘルスの問題を抱える学生は多い

- 大学1年生のうち31%が過去1年に精神疾患を経験 (Auerbach, 2018)
- 学生は学外機関・学内機関ともに利用可能



※本研究における支援：様々な機関から提供される支援の総称

■ 利用者視点の不足

- 症状の改善度や転帰などで支援を評価することが多い
- しかし、支援サービスの評価は利用者の経験を考慮しなければ不十分
(NCCMH, 2012)
- 精神疾患を持つ人は目に見えない様々な障害を抱えるため、支援を受ける過程にも困難を感じる可能性
- 学生による支援の利用経験は報告がない

「支援を受けて、困ったことはありませんでしたか？」
「どのような支援が助かりましたか？」
などと、直接聞いた研究がない

目的

メンタルヘルスの支援を受けた学生（大学生・大学院生）が経験した、支援を受けるうえで

- ・困ったこと
- ・助かったこと、支援に求めること（助かること）

を明らかにすること。

方法

対象者

メンタルヘルス支援を3か月以上受けたことがある
大学生・大学院生

サンプリング

- ① 首都圏の総合大学1校の保健センター精神科での呼びかけ
- ② 機縁法

データ収集

2018年9月～2019年8月
個別の半構造化インタビュー

インタビュアー：学部生（当時）、女性、支援利用経験あり

質問1) 今まで支援を受ける中で困ったこと

質問2) 支援の中で助かったこと、ありがたかったこと
あるいはされたら助かること、楽になること

分析

Braun & Clarke (2006) のテーマ分析法を参考に
逐語データをコード化、テーマ・サブテーマを生成

- ・質的研究報告のための統合基準 (COREQ) に則り報告
- ・東京大学大学院医学系研究科・医学部倫理委員会の承認 (審査番号2018019NI-(2))

ID	性別	学年／卒後年数	診断名	支援を受けた期間
A	男	卒後4年	うつ病 (気分変調症・持続性抑うつ障害)	7年 9ヶ月
B	男	修士2年	摂食障害	9ヶ月
C	男	卒後0年	抑うつ状態	8年 0ヶ月
D	男	卒後0年	双極性障害II型	6年 9ヶ月
E	男	卒後0年	ADHD、抑うつ／双極性障害II型	6年11ヶ月
F	女	卒後0年	広汎性発達障害 (ADHD、アスペルガー)	5年 0ヶ月
G	女	学部2年	自閉症スペクトラム	2年11ヶ月
平均				5年 5ヶ月

* 全員が学外と学内の両方の支援機関を利用した経験があった。

結果 困ったこと

テーマ (4)

サブテーマ (13)

【必要とされることができない】

〔電話・メールができない〕

〔外出がつらい〕

〔考えの整理ができない〕

〔できないことが失礼に当たり申し訳ない〕

【支援に嫌な気持ちや不満を感じる】

〔支援者の言葉・態度がつらい〕

〔支援の意義が感じられない〕

〔ゆっくり話せない〕

〔行きたい時に予約枠がない〕

【学業や生活に困難が生じる】

〔教員への説明や学務手続きがつらい〕

〔家族や友人に説明しにくい〕

〔休養時の過ごし方が難しい〕

【支援が始まらない】

〔自分が病気かどうか分からぬ〕

〔支援を受けていると人に知られたくない〕

サブテーマ	データ例
〔電話・メールができない〕	電話をかけて、誰々さんいらっしゃいますかって言って、 (略) 休みますって言うことはすごい大変 (略) メールのソ フトを開いてそれを打つのもつらい (A)
〔外出がつらい〕	外出することがまず難しかったし、(略) 時間を決めて動 くっていうのも難しかった (D)
〔考えの整理ができない〕	頭が回って無いんで(略) 何がしんどいかとかが、自分で 言葉にできない (C)
〔できないことが失礼に当たり 申し訳ない〕	その時間本当は別の人気が診られたかもしれないし、あと、 かつ、連絡できないなんてなんて無礼なことをしたんだろう うとも思います (キャンセル連絡をせずに診察に行かな かった時) (A)

サブテーマ	データ例
〔支援者の言葉・態度がつらい〕	何甘えたこと言っとんねんってボッコボコに(略)怒鳴りつけられた感覚でわーって言われて(C)
〔支援の意義が感じられない〕	何かが良くなつたというよりむしろ何か、すごく傷ついて帰つてくることが多かった(E)
〔ゆっくり話せない〕	もっと手短にまとめなくちゃとか、あと後ろの人待ってるとか、何分話していいんだろうとか、あ、なんとなく先生は早く切り上げたい感じかな、今日は、とか(A)
〔行きたい時に予約枠がない〕	(大学に)行けてる時に(略)話したいけど、その時は予約を取ってないから、行けない(F)

サブテーマ	データ例
〔教員への説明や学務手続きがつらい〕	実際甘えって言われたらそうかもしれないとしか言えない(略) 何から説明したらいいか自分でも分からぬ(G)
〔家族や友人に説明しにくい〕	自分がダメなやつなんだとか、こんなこと人に言うもんじゃないとか(D)
〔休養時の過ごし方が難しい〕	してもしなくてもいいような課題とか、行っても誰がいるわけでもないし、何があるわけでもないようなことをするっていうのは、すごく難しくて(A)

サブテーマ	データ例
〔自分が病気かどうか分からぬ〕	家でずっと寝てると、あの、それが病気だっていう風に思ったり、なかなか、出来なくて (D)
〔支援を受けていると人に知られたくない〕	精神科に通っているってこと 자체を、例えば教員とか、同期とかに(略) 知られるのが嫌だというか、知られて、それを気遣われて、(略) 色目使って見られるのが、嫌だった (B)

テーマ (3)

サブテーマ (10)

【樂になる対応をしてくれる】

〔申し訳なさを打ち消してくれる〕

〔様子に気付いてくれる〕

【選択肢が多く仕組みが柔軟】

〔十分な時間をかけて色々な話ができる〕

〔行きたい時間に行ける〕

〔メール・電話以外で簡単に連絡できる〕

〔色々な支援が試せる〕

〔支援の場以外にも支えられることがある〕

【学業や生活を助けてくれる】

〔履修確認・学務手続きを手伝ってくれる〕

〔必要な配慮を教員に伝えてくれる〕

〔休養時の過ごし方を支援してくれる〕

サブテーマ	データ例
〔申し訳なさを打ち消してくれる〕	「今すごい 大変なんですね 、来週また会えるの楽しみにしてます」(予約をキャンセルする電話での支援者の言葉) (A)
〔様子に気付いてくれる〕	着いて、すぐ しんどい か聞いてくれるのはありがたかった(略)しんどいと分かってるとそういう話を全部避けてくれる (G)

サブテーマ

データ例

〔十分な時間をかけて色々な話ができる〕	軌道修正をしながらやるっていう意味で、こう定期的に話すっていうのが、よかった(B)
〔行きたい時間に行ける〕	もう無理ってなった時に、(略)「今から入れますか?」みたいな。(略)学校に <color>受けた時に対応してもらえる</color> というの <color>はすごく助かる</color> (F)
〔メール・電話以外で簡単に連絡できる〕	<color>ポンとボタンを押すだけで、具合が悪くて行けません、すみません</color> ことを伝えるような仕組み(A)
〔色々な支援が試せる〕	すごく必要性を感じてたから、やるっていうことじゃなくて、(略) <color>やってみて、実感して、「あ、必要だ」</color> って自分も理解することもある(F)
〔支援の場以外にも支えられることがある〕	(友人が)分かった上で、「 <color>またやっちゃいましたね!</color> 」みたいな感じ…でいてくれること…が、自分にとってはすごく大きな支えだった(E)

サブテーマ	データ例
〔履修確認・学務手続きを手伝ってくれる〕	<p>授業に出たら、その先生に報告に行って、一緒に色塗って、 (略)あと何回休んだらやばいねみたいな、話をする(F)</p>
〔必要な配慮を教員に伝えてくれる〕	<p>教務委員会とかにもかけてくれて、で文書にして、各科の実習責任者の先生に、そのチューターの先生からメールなり何なりで伝えてくださった(略)感謝っていうかもう本当に、夢のような出来事(A)</p>
〔休養時の過ごし方を支援してくれる〕	<p>バイトがあるからやってみない?って声をかけていただいて (略)向こうが障害とかも全部知ってる状態でやってくれるので、配慮が結構きくので(略)これなら続けられそう(G)</p>

■ 予約面接システムへの示唆

予約・キャンセルなど、連絡の困難

支援を受けに外出することの困難

予約枠の制限に関する困難

■ 支援者－利用者間コミュニケーションへの示唆

ネガティブなコミュニケーションを経験していた

うつ・不安等、状態によって受け取り方が異なる可能性

■ 修学支援に関するニーズ

欠席回数の猶予、代替方法での受講：推奨される障害学生への合理的配慮
と一致（独立行政法人日本学生支援機構, 2015）

教員に学生自ら説明しにくいことが障壁に

- 利用者本人から支援に対する声を聞き取った新規性の高い研究
- 支援のネガティブな経験や不満、支援に求めることについて具体的な語りが得られた
- **限界**：対象者数の少なさ
- **今後の課題**：
 - より多くの対象者に支援の経験について調査を行う
 - 利用者の状態や支援内容による経験の違いを明らかにする

ご清聴ありがとうございました